



第 92 回 日本細菌学会関東支部総会

講演抄録集

期 日：平成21年 **11月5日** 木・**6日** 金

会 場：東京医科歯科大学

総会長：岡村 登（東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科）

*Japanese Society for
Bacteriology*

第92回 日本細菌学会関東支部総会 講演抄録集

総会長：岡村 登（東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科）

期 日：平成21年11月5日（木）～6日（金）

会 場：東京医科歯科大学 5号館
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

PROGRAM

- 評議委員会：11月5日（木） 11：45～12：45
歯学部附属病院地下1階 レストラン「アルメイダ」
- 会務総会：11月5日（木） 12：45～13：15
5号館講堂4F
- 情報交換会：11月5日（木） 18：30～20：00
歯学部附属病院地下1階 レストラン「アルメイダ」

第92回日本細菌学会関東支部総会事務局

東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科

担 当：岡村 登、千田 俊雄、長 雄一郎

参加者へのご案内

参加費：一般会員 5,000円
学 生 2,000円

情報交換会費：無 料

補足：講演抄録集は事前参加登録した方に配布いたします。当日参加で抄録集をご希望の方は500円いただきます。

講演者へのご案内

- 1) 演者の方は発表30分前までに、会場入り口のスライド受付にメディア（USB メモリーまたはCD-Rに限る。CD-RWは不可）をお持ちください。また、万が一に備えてバックアップデータも必ずご用意ください。ウイルスチェックを各自しておいてください。
- 2) パソコンは「Microsoft Windows Vista 搭載パソコン」で、アプリケーションソフトは「Microsoft Power Point2007」（97, 2000, 2002, 2003で作成されたものにも対応）を使用します。
- 3) 動画発表およびMacintosh発表については自分のPCを持参してください。尚、映像端子はミニD-sub15ピンコネクタのみ対応です。対応していないPCの場合には各自で接続アダプターを持参してください。またPCを持参される場合は、外部ディスプレイに出力が可能であることを事前に確認してください。プロジェクター投影はXGA形式（1024×768）となります。予め、設定しておいてください。発表中にスクリーンセーバーや省電力機能で電源が切れないように設定しておいてください。
- 4) 演者の方は前演者の講演開始後、直ちに次演者席にお着きください。
- 5) 一般演題はすべて口頭発表です。発表時間は8分、討論2分の計10分です。発表時間を厳守お願いします。また情報交換会の時に、一般演題の中からBest Presentation賞を2名に送る予定です。
- 6) シンポジウムの演題の発表時間は25分、討論5分の計30分です。発表時間は厳守でお願いします。
- 7) 発表データは学会終了後に責任を持って消去いたします。

交通のご案内



会場：東京医科歯科大学（湯島キャンパス）5号館講堂

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

会場へのアクセス

■ JR 線

御茶ノ水駅下車…………… 徒歩5分

■ 地下鉄

[丸の内線] 御茶ノ水駅下車 …………… 徒歩2分

[千代田線] 新御茶ノ水駅下車 …………… 徒歩10分

■ バス

● 東43系統 都バス

荒川土手操車場—東京駅北口間 …………… 御茶ノ水駅前下車

● 茶51系統 都バス

駒込駅南口—御茶ノ水駅前間 …………… 御茶ノ水駅前下車

日 程 表

11月5日 日	
9:00	9:00~9:05 会長挨拶
	9:05~9:35 [真菌・放線菌] 01~03 座長：五ノ井 透(千葉大)
	9:35~10:05 [検出・同定 1] 04~06 座長：村山 琮明(北里大)
10:00	10:05~10:35 [検出・同定 2] 07~09 座長：関崎 勉(東大)
	10:35~10:45 休 憩
	10:45~11:15 [生 理] 10~12 座長：神谷 茂(杏林大)
11:00	11:15~11:45 [疫 学] 13~15 座長：松下 秀(東京都健康安全研究センター)
12:00	11:45~12:45 昼食・評議員会
	12:45~13:15 会務総会
13:00	13:15~13:35 [免疫・生態防御 1] 16~17 座長：滝本 博明(北里大)
	13:35~13:55 [免疫・生態防御 2] 18~19 座長：瀬戸真太郎(浜松医科大)
14:00	13:55~14:15 [免疫・生態防御 3] 20~21 座長：丹生 茂(帝京大)
	14:15~14:35 [薬剤耐性 1] 22~23 座長：水之江義充(慈恵医大)
	14:35~15:05 [薬剤耐性 2] 24~26 座長：大西 真(感染症研)
15:00	15:05~15:35 [薬剤耐性 3] 27~29 座長：秋庭 正人(動物衛生研)
	15:35~15:45 休 憩
	15:45~16:15 [病原因子・病態 1] 30~32 座長：山本 友子(千葉大)
	16:15~16:45 [病原因子・病態 2] 33~35 座長：平井 義一(自治医大)
17:00	16:45~17:05 [病原因子・病態 3] 36~37 座長：泉福 英信(感染症研)
	17:05~17:35 [遺 伝 1] 38~40 座長：馬場 理(順天堂大)
	17:35~18:05 [遺 伝 2] 41~43 座長：阿部 章夫(北里大)
18:00	18:30~20:00 情報交換会(Best Presentation 賞授与式)

11月6日 金	
9:00	9:00~12:30 シンポジウム 感染症の最前線 — 細菌の新たな感染戦略の解明 — 司会：岡田 信彦(北里大)、村山 琮明(北里大)
	9:15~9:45 1 サルモネラ感染と免疫応答 羽田 健 北里大学
	9:45~10:15 2 国内分離された髄膜炎菌株の 分子疫学的解析とそれらを用いた <i>Neisseria meningitidis</i> の 病原性因子の解析 高橋 英之 国立感染症研究所
	10:15~10:45 3 腸管出血性大腸菌が産生する 志賀毒素の菌体外放出機構 清水 健 千葉大学
11:00	10:45~11:00 休 憩
	11:00~11:30 4 <i>Helicobacter pylori</i> の 宿主感染戦略 三室 仁美 東京大学
	11:30~12:00 5 <i>Streptococcus pyogenes</i> の 宿主内生存戦略 中川 一路 東京医科歯科大学
12:00	12:00~12:30 6 バンコマイシン耐性腸球菌VREの 高頻度接合伝達性プラスミド 富田 治芳 群馬大学

一般演題1 [真菌・放線菌] (9:05～9:35)

座長：五ノ井 透(千葉大・真菌医学研究センター)

01 病原性藻類 *Prototheca* の特徴と遺伝子同定法の開発

○小野崎 正修^{1,2)}、槇村 浩一¹⁾、佐藤 一郎¹⁾、長谷川 篤彦¹⁾

¹⁾帝京大学医真菌研究センター、²⁾関東化学株式会社

02 アレルギー性気管支肺真菌症患者の粘液栓子から検出された真菌要素の ISH 法による同定

○村山 琮明、生方 公子

北里大学大学院感染制御科学府 病原微生物分子疫学研究室

03 子宮平滑肉筋腫患者から分離されたアゾール系抗真菌薬耐性 *Candida albicans* の耐性機序

○三澤 慶樹、齋藤 良一、下坂 芳子、森屋 恭爾、小池 和彦

東京大学医学部附属病院 感染制御部

一般演題2 [検出・同定1] (9:35～10:05)

座長：村山 琮明(北里大・感染制御科学府)

04 外耳道における *Malassezia* 属真菌の分離頻度と病原性；外耳道炎症例と健常者における比較検討

○金子 孝昌^{1,2)}、塩田 量子³⁾、梅田 宜子²⁾、槇村 浩一²⁾

¹⁾関東化学株式会社 試薬事業本部 マイクロバイオ部、²⁾帝京大学医真菌研究センター、

³⁾滝宮総合病院 中央検査科

05 タイ放線菌症患者から分離した新種の *Streptomyces* 属菌の報告

○大本 悠太¹⁾、Natteenwan Poonwan²⁾、矢澤 勝清¹⁾、芝崎あずさ¹⁾、松澤 哲宏¹⁾、
矢口 貴志¹⁾、五ノ井 透¹⁾

¹⁾千葉大学大学院 真菌医学研究センター、²⁾タイ国衛生研究所

06 臨床検体から検出された *Moraxella nonliquefaciens* の同定に関する検討

○西山 宏幸^{1,2)}、松崎 公典²⁾、守 さと子¹⁾、三上 千映¹⁾、山舘 周恒³⁾、
佐野 和三¹⁾、千田 俊雄²⁾、小栗 豊子^{2,4)}、岡村 登²⁾、土屋 達行⁵⁾

¹⁾駿河台日本大学病院 臨床検査部、²⁾東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科、

³⁾日本大学医学部附属練馬光が丘病院 臨床検査部、⁴⁾亀田総合病院 臨床検査部、

⁵⁾日本大学医学部 臨床検査医学分野

一般演題3 [検出・同定2] (10:05～10:35)

座長：関崎 勉(東大・農学生命科学研究科)

07 クマ口腔から分離した2種類の *Streptococcus* 属菌の解析

○篠崎 紀子、齋藤 真規、高田 和子、平澤 正知
日本大学 松戸歯学部 感染・免疫学

08 鶏肉由来 *Campylobacter jejuni* の *gyrA* の塩基配列および codon-86 点変異検出法の検討

○古川 一郎、伊達 佳美、相川 勝弘、浅井 良夫、石原ともえ、黒木 俊郎
神奈川県衛生研究所 微生物部

09 国内産爬虫類寄生性マダニから見いだされたボレリアとそのマダニ体内での動態

○高野 愛¹⁾、藤田 博己²⁾、角坂 照貴³⁾、今内 覚⁴⁾、田島 朋子⁵⁾、武藤 麻紀¹⁾、
小笠原由美子¹⁾、川端 寛樹¹⁾、渡邊 治雄¹⁾
¹⁾国立感染症研究所 細菌第一部、²⁾大原総合病院附属 大原研究所、
³⁾愛知医科大学医学部 寄生虫学教室、⁴⁾北海道大学 大学院獣医学研究科 動物疾病制御学講座、
⁵⁾大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 獣医微生物学

一般演題4 [生理] (10:45～11:15)

座長：神谷 茂(杏林大・医)

10 ヘリコバクター・ピロリにおけるステロイドホルモンの同化的利用

○細田 浩一、下村 裕史、林 俊治、平井 義一
自治医科大学 感染・免疫学講座 細菌学部門

11 レシチンの溶菌作用に対する耐性発現に重要なピロリ菌のステロイド吸収

○下村 裕史、細田 浩一、林 俊治、平井 義一
自治医科大学 感染・免疫学講座 細菌学部門

12 オゾンナノバブル水の抗菌効果と口腔応用への可能性の検討

○齋藤 真規、高田 和子、平澤 正知
日本大学松戸歯学部 感染・免疫学

シンポジウム

感染症の最前線

－細菌の新たな感染戦略の解明－

司会：岡田 信彦 北里大学 薬学部
村山 琮明 北里大学大学院 感染制御学府

サルモネラ感染と免疫応答

羽田 健 北里大学 薬学部 微生物学教室

我が国において、サルモネラによる食中毒は発生件数および患者数ともに上位であり、感染予防・治療が望まれる。しかしながら、サルモネラ腸炎の分子メカニズムについては未だ不明な点が多い。

サルモネラには2000を超す血清型が知られているが、ヒトに全身感染し、重篤な腸チフス・パラチフスを惹起する血清型(チフス性サルモネラ)と局所感染により腸炎を引き起こす血清型(非チフス性サルモネラ)とに大別することができる。非チフス性サルモネラの多くは、ヒト以外のほ乳類、げっ歯類および鳥類に幅広く感染し全身感染を引き起こすため、これまで適当なサルモネラ腸炎モデルが存在せず、サルモネラ腸炎の *in vivo* での解析が困難であった。しかし、ストレプトマイシン投与(Strep)マウスがサルモネラ腸炎のモデルとして使用されるようになってから、新たな分子メカニズムが明らかにされてきている。Strep マウスに血清型 Typhimurium を経口感染すると、盲腸に炎症が起こる。この盲腸では IFN- γ 、IL-22 および IL-17 のようなサイトカインが著しく発現誘導され、その結果、好中球の遊走に関わる CXC ケモカインが分泌される。このことは T 細胞がサルモネラ腸炎に重要な役割を果たしていることを示している。

一方、サルモネラ腸炎に関わる細菌側の因子として、*Salmonella* pathogenicity island (SPI)-1 にコードされた III 型分泌機構が知られてい

る。感染初期に宿主腸管内で発現される SPI-1 III 型分泌機構は M 細胞や上皮細胞にエフェクターを注入することによりアクチン骨格を制御し、貪食運動を誘導する。エフェクターはまた、mitogen-activated protein kinase (MAPK) の活性化により炎症性サイトカインの分泌を誘導し、腸炎を引き起こす。上皮細胞バリアを突破したサルモネラは SPI-1 および鞭毛 III 型分泌機構によりフラジェリンを分泌し、上皮細胞管腔側に発現する Toll-like receptor (TLR) 5 を介したシグナル伝達系を活性化し、炎症性サイトカインが発現される。またマクロファージや樹状細胞に貪食されたサルモネラは、フラジェリンをこれらの細胞の細胞質に分泌し、nucleotide-binding oligomerization (Nod)-like receptor ファミリー Ipaf を介した caspase-1 inflammasome を誘導する。この結果、活性化された caspase-1 により炎症性サイトカインが発現される。さらに詳細は不明であるが、感染中・後期に発現される SPI-2 III 型分泌機構も腸炎発症に関与することが報告され、サルモネラ腸炎発症には SPI-1 および SPI-2 が必要であることが明らかにされている。

近年、サルモネラでは腸炎を抑制する因子がいくつか同定されており、サルモネラは腸炎を回避し、増殖を可能にすることで全身感染を誘導することが示唆されている。本シンポジウムでは、サルモネラ感染における細菌の病原因子と宿主の免疫反応との攻防について解説したい。

一般演題

○小野崎正修^{1,2)}、楨村 浩一¹⁾、佐藤 一郎¹⁾、長谷川篤彦¹⁾

1) 帝京大学医真菌研究センター、2) 関東化学株式会社

Development of a method for the genetic Identification of pathogenic algae *Prototheca*

○Masanobu Onozaki^{1,2)}, Koichi Makimura¹⁾, Ichiro Satoh¹⁾, Atsuhiko Hasegawa¹⁾

1) Teikyo University Institute of Medical Mycology

2) Kanto Chemical Co., Inc.

【目的】 *Prototheca* 属は、Trebouxiophyceae に属する葉緑体が萎縮した藻類であり、土壌や樹皮、湖水及び河川など様々な環境中に生息している。*Prototheca* 属は主にヒトやイヌ・ウシにおいて全身または、局所に感染し、真菌症類似の prototecosis (プロトテカ症) を引き起こすことが知られている。ヒト、イヌ等においては、重篤な深部皮膚感染症を生じるのみならず (*P. zopfii*, *P. wickerhamii* 等)、ウシの乳房炎を引き起こす原因藻として産業上問題となっている (*P. zopfii*, *P. blaschkeae*)。

Prototheca 属の特長として、孢子嚢から発育が始まりやがて内部分裂により細胞内に孢子嚢孢子 (内孢子) が形成されるという *Chlorella* 属に類似した生活環 (autospore formation) を有している。しかし、*Chlorella* 属等の葉緑素を持つ他藻類との分類は、葉緑素の有無を鏡検することで容易に分類できる。また、本藻は、サブローデキストロース寒天培地、イーストアンドモールド寒天培地 (YMA) などに白色～乳白色を呈する酵母様真菌と類似したコロニーを形成することも知られており、加えて、簡易資化性試験による藻種の同定も可能であるが、3～4日の時間を要する。prototecosis の治療においては、早期の診断と有効な抗真菌薬等の選択が重要であり、迅速な診断法が必要である。

【方法】 *Prototheca* 属の標準株として、理研バイオリソースセンター (JCM) 及び Culture Collection of Algae (SAG) 等に保存されている 18 株を用いた。また、供試株としてウシ乳房炎から酵母様のコロニーとして分離された菌株 50 株を検討した。これらを YMA 及び CHROMagar™ *Candida* 培地を用

いて、各培養条件における発育したコロニー形態等の観察を行った。また、*P. zopfii* に特異的な TaqMan® MGB Probe を用いた Real-Time PCR 検出系を開発し、各株の検討を行った。Primer は、DDBJ/EMBL/GenBank に登録のある *Chlorella* 属及び *Prototheca* 属の SSUrDNA のアライメントより、*P. zopfii* に特異的な 18PZF1 と 18PZR1 を作成し、その増幅領域の内側に Probe として "PZP1" を設計し、本系の基本的性能を確認した。

【成績】 培養温度 25℃ と 37℃ で各培地を検討し、また、48hr 及び 72hr で発育したコロニーの観察とその形態を鏡検した結果、多くが、72hr 培養を必要とし、37℃ での発育が良好であった。しかし、37℃ では発育しない藻種もあった。72hr でのコロニー形態は、双方の培地で *P. zopfii* は、平坦でかさかさした中型コロニー、*P. wickerhamii* は、丸みを帯びた粘性のある小型コロニーを形成した。CaC における各藻のコロニーはピンク～紫の発色を呈した。また、臨床分離株は、PZP1 を用いた検出系において、すべて *P. zopfii* と同定された。

【結論】 *Prototheca* 属は、培養したコロニーの形態確認で、酵母様真菌と誤同定されやすいが、鏡検や培養条件を至適設定することで一部の種は、推定同定が可能であった。しかし、種が多様化している *Prototheca* 属では、その正確な同定も困難となっている。本研究で開発した Real-Time PCR 検出系は、*P. zopfii* に対して迅速性と特異性に優れ、その有用性が確認された。

アレルギー性気管支肺真菌症患者の粘液栓子から検出された真菌要素の ISH 法による同定

○村山 琮明、生方 公子

北里大学大学院感染制御科学府 病原微生物分子疫学研究室

Identification of fungal elements within the mucus plugs from ABPA patients by *in situ* hybridization

○Somei Murayama, Kimiko Ubukata

Kitasato University, Graduate School of Infection Control Sciences, Laboratory of Molecular Epidemiology for Infectious Agents

【目的】肺アスペルギルス症は、肺アスペルギローマ、侵襲性肺アスペルギルス症、およびアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) と多様な病型をとる。そのうち ABPA は、1952 年にヒンソン等によって、血液および喀痰の中に好酸球が増加していることと、胸部 X 線写真で肺に浸潤陰影を認める肺好酸球増多症の例として、初めて報告された。

1) 呼吸器専門医師以外にはまだあまり知られていない
2) 診断法が確立されておらず、ABPA であっても正しく診断されていないケースが多い
という理由で、一般の診療所などではただの風邪や喘息、あるいは pulmonary infiltration with eosinophilia syndrome (PIE 症候群) と誤診されることもある。

われわれは、分子生物学的手法を用いて、組織切片上で病原真菌の DNA を視覚的に検出・同定する真菌症の *in situ* 遺伝子診断法の開発に成功している。今回、粘液栓子中にわずかながら真菌要素が検出され、ABPA と診断された患者 2 例 (症例 1、症例 2) について、粘液栓子検体を用いて *in situ* hybridization (ISH) 法による菌種同定を試みた。

【方法】ISH 法は、次の 3 種のプローブを用いて実施した。

- I. プローブ 1: 広範囲の病原真菌を検出する 18S rRNA 遺伝子を標的とする汎真菌プローブ。
- II. プローブ 2: *Aspergillus* 属特異的プローブ (文献 1, *A. fumigatus* の alkaline protease 遺伝子の

一部)。

III. プローブ 3: *A. fumigatus* 特異的プローブ (*A. fumigatus* のレトロトランスポゾン *AfutI* 両末端の long terminal repeat (LTR) の一部)。

粘液栓子検体として、症例 1 から 2 検体 (検体 A, B)、症例 2 から 3 検体 (検体 C, D, E)、併せて 5 検体を使用した。

【結果および考察】検体 A、はプローブ 1、および 2 のみで確認でき、プローブ 3 では粘液栓子に真菌要素が充分量含まれていなかったためか確認できなかった。検体 B ~ E はプローブ 1 ~ 3 のいずれに対しても明瞭な陽性反応を示したことから、検体中に認められた真菌要素は *A. fumigatus* と同定された。

粘液栓子内の菌体は、培養検査では検出できない場合が多く、Grocott 染色標本の鏡検でも菌要素を確認しにくい。このような症例の起因菌同定には、ISH 法が有用と考えられる。また、今回 20 年以上も長期保存されていた粘液栓子検体でも ISH 法の適用が可能であったことから、本法は過去の症例の retrospective な診断や解析にも有用なことが示唆される。

会員外共同研究者：蛇澤 晶 (独立行政法人国立病院機構東京病院・病理)

文献

- 1) Hanazawa R, Murayama SY, Yamaguchi H. J Med Microbiol. 49:285-90, 2000.

会務関係資料

関東支部総（例）会

評議員名簿

日本細菌学会関東支部総(例)会

支部長	回	年	月日	総(例)会長	会 場
寺田 正中	0	昭和22	11.16～17	寺田 正中(慈大)	東大 医
	1	23	11.14～15	寺田 正中(慈大)	東大 医
	2	24	11.13～14	寺田 正中(慈大)	北里講堂
	3	25	11.12～13	長谷川秀治(伝研)	伝研
	4	26	6.22～23	滝田 順吾(北里研)	北里講堂
	5		11.15～16	滝田 順吾(北里研)	北里講堂
	例1	27	2.23	寺田 正中(慈大)	慈大
	6		6.20～21	小林 六造(予研)	公衛院
	例2		9.13	緒方 富雄(東大 医)	東大 医
	7		11.14～15	小林 六造(予研)	公衛院
秋葉朝一郎	例3	昭和28	6.27	中村 敬三(日医大)	日医大
	例4		9.19	清水 文彦(東医歯大)	東医歯大
	8		11.6～7	秋葉朝一郎(東大 医)	東大 医
	例5	29	6.18	小林 正芳(家畜衛試)	家畜衛試
	例6		9.25	土屋 毅(順大 医)	順大 医
	9		11.13～14	清水 文彦(東京歯大)	東京歯大
	例7	30	6.18	矢追 秀武(横浜市医大)	横浜市医大
	例8		9.24	平野 憲正(東京女子医大)	東京女子医大
	10		11.18～19	牛場 大蔵(慶大 医)	北里講堂
	滝田 順吾	例9	昭和31	6.23	米沢 和一(東京歯大)
11			11.16～18	小島 三郎(予研)	公衛院
代行	例10	32	6.29	田崎 忠勝(信大 医)	信大 文理
沼田 岳二	12		11.15～16	大黒 勇(東医大)	新宿文化会館
	例11	33	7.4～5	三橋 進(群馬大 医)	伊香保会館
	13		11.14～15	白土 寿一(日大 歯)	日大 歯
牛場 大蔵	例12	昭和34	5.29～30	越後貫 博(千葉血清研)	千葉血清研
	例13		4.27～28	児玉 威(神奈川衛研)	神奈川勤労会館
	14	35	11.13～14	後藤 正勝(東大 医)	東大 医
	15		11.11～12	工藤正四郎(伝研)	公衛院
	例14	36	6.23～24	相磯 和嘉(千葉大腐研)	千葉大 医
	16		11.10～11	福留 勇(昭和大 医)	昭和大 医
工藤正四郎	例15	昭和37	6.15～16	染谷 四郎(公衛院)	公衛院
	17		11.15～16	辺野喜正夫(都衛研)	厚生年金会館
	例16	38	5.24～25	福見 秀雄(予研)	公衛院
	18		11.14～15	桑原 章吾(東邦大 医)	厚生年金会館

支部長	回	年	月日	総(例)会長	会場
柳沢 讓	例18	昭和40	6.18	木村 義民(日医大)	都市センター
	20		11.10～11	相沢 憲(日大 医)	私学会館
	例19	41	6.2～3	柴田 重孝(家畜衛試)	小金井公会堂
	21		11.10～11	山本 郁夫(伝研)	野口記念会館
	例20	42	6.2～3	佐々木正五(慶大 医)	北里講堂
	22		11.16～17	広木 彦吉(日歯大)	私学会館
清水 文彦	例21	昭和43	6.14～15	水野 伝一(東大 薬)	東大 理
	23		11.12～13	横田 健(山梨衛研)	山梨県民会館
	例22	44	6.13～14	大園 卓(山之内中研)	野口記念館
	24		11.12～13	土田 毅(順大 医)	私学会館
	例23	45	6.25～26	岩原 繁雄(国衛試)	科学技術館
	25		11.11～12	中谷林太郎(公衛院)	農協ビル
大黒 勇	例24	昭和46	6.3～4	新井 正(千葉大腐研)	千葉大 医
	26		11.11～12	岩田 和夫(東大 医)	農協ビル
	27	47	7.20～21	三淵 一二(静薬大)	静岡県民会館
	28		10.30～31	柴田 重孝(家畜衛試)	農協ビル
	29	48	6.22～23	常松 之典(医科研)	山梨ホール
	30		11.14～15	近藤 勇(慈大)	慈大
近藤 勇	31	昭和49	7.5～6	安斎 博(北里大)	北里大衛生学部
	32		11.20～21	善養寺 浩(都衛研)	都市センターホール
	33	50	6.26～27	高添 一朗(東京歯大)	野口記念会館
	34		11.10～11	吉岡 守正(東京女子医大)	東京女子医大
	35	51	6.25～26	田所 一郎(横浜市大 医)	横浜教育文化センター
	36		11.18～19	黒川 正身(予研)	野口記念会館
吉岡 守正	37	昭和52	6.24～25	本間 遜(医科研)	農協ホール
	38		11.29～30	斎藤 和久(慶大 医)	野口記念会館
	39	53	6.15～16	山岸 三郎(千葉大 薬)	薬学会館
	40		11.9～10	木村 貞夫(帝京大 医)	帝京大臨床大講堂
	41	54	7.6～7	松井 清治(北里大)	神奈川県民ホール
	42		11.20～21	尾形 学(東大 農)	野口記念会館
中谷林太郎	43	昭和55	6.5～6	田中 信男(東大応微研)	エーザイホール
	44		11.27～28	小松 信彦(昭和大 医)	野口記念会館
	45	56	6.25～26	片山 有夫(城西歯大)	野口記念会館
	46		10.17～18	橋本達一郎(筑波大)	筑波大臨床講堂
	47	57	6.26	松橋 直(予研)	公衛院
	48		11.11～12	吉田 耕作(聖マリアンナ医大)	聖マリアンナ医大臨床講堂
合田 朗	50	昭和59	11.7～8	加藤 巖(千葉大 医)	野口記念会館
	51		6.19	五島瑳智子(東邦大 医)	こまばエミナース
	52	60	11.16～17	深沢 義村(山梨医大)	山梨県民文化ホール
	53		6.7	光岡 知足(東大 農)	野口記念会館
	54		11.21～22	神中 寛(防衛医大)	野口記念会館

支部長	回	年	月日	総(例)会長	会 場
木村 貞夫	55	昭和61	6. 2	吉川昌之介(医科研)	東邦生命ホール
	56		10.16～17	寺脇 良郎(信州大 医)	松本市中央公民館
	57	62	6. 8	金井 興美(予研)	野口記念会館
	58		10.15～16	緒方 幸雄(杏林大 医)	野口記念会館
	59	63	6. 4	黒坂 公生(慈大)	慈大
	60		11.15～16	秋山 武久(北里大 医)	神奈川県民ホール
徳永 徹	61	平成1	6. 3	河西 信彦(昭和大 医)	昭和大上条講堂
	62		10.12～13	橋本 一(群馬大 医)	水上・ホテル聚落
	63	2	6. 9	渡辺 武彦(日本歯大)	野口記念会館
	64		11.13～14	山口 英世(帝京大 医)	私学会館アルカディア市ヶ谷
	65	3	6.12～13	河野 恵(東薬大)	野口記念会館
	66		11. 7～ 8	中野 昌康(自治医大)	地域医療研修センター
島村 忠勝	67	平成4	6.19～20	島村 忠勝(昭和大 医)	昭和大学上条講堂
	68		11. 5～ 6	金ヶ崎士郎(医科研)	医科研講堂
	69	5	6.24～25	川上 正也(北里大 医)	グリーンホール相模大野
	70		11. 5～ 6	故長田恭明(第一製薬)	長井記念館
	71	6	6.22～23	工藤 康雄(都衛研)	北とぴあ
	72		11.10～11	吉田 孝人(浜松医大)	遠鉄ホテルエンパイア
吉川昌之介	73	平成7	6.22～23	三瀬 勝利(国衛試)	予研
	74		10.26～27	新井 俊彦(明治薬大)	こまばエミナース
	75	8	6.27～28	澤井 哲夫(千葉大 薬)	千葉大学けやき会館
	76		11.13～14	内山 竹彦(東京女子医大)	東京女子医大弥生記念講堂
	77	9	6.26～27	奥田 克爾(東京歯科大)	アルカディア市ヶ谷
	78		10.30～31	竹田 多恵(小児医療センター)	横浜ロイヤルパーク
内山 竹彦	79	平成10	7.10～11	中江 太治(東海大 医)	いこいの村あしがら
	80		11.25～26	大 壽士(日本医大老人研)	スクワール麴町
	81	11	6.29～30	平松 啓一(順天堂大 医)	順天堂大学有山記念講堂
	82		11.18～19	林 英生(筑波大 基礎医)	サンレイク土浦
	83	12	11.20～21	渡邊 治雄(国立感染症研究所)	国立感染症研究所
	84	13	11.26～27	奥田 研爾(横浜市大 医)	神奈川県民ホール
85	14	11.21～22	笹川 千尋(医科研)	医科研講堂	
神谷 茂	86	平成15	10.30～31	神谷 茂(杏林大 医)	横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
	87	16	11. 5～ 6	井上 松久(北里大 医)	北里大薬学部コンベンションホール
	88	17	10.20～21	小出 幸夫(浜松医大)	アクティシティ浜松コンgresセンター
渡邊 治雄	89	平成18	11.16～17	池 康嘉(群馬大 医)	伊香保温泉・森秋旅館
	90	19	10.12～13	荒川 宜親(感染研 細菌第二)	国立感染症研究所戸山庁舎
	91	20	10.23～24	山本 友子(千葉大 院薬)	生命の森リゾート
山本 友子	92	21	11. 5～ 6	岡村 登(東医歯大)	東京医科歯科大学5号館講堂

日本細菌学会関東支部総会評議員名簿

(任期：平成21年1月1日～平成23年12月31日)

役 職	氏 名	所 属
学術集会委員会	秋庭 正人	動物衛生研究所
活性化推進委員会(委員長)	石原 和幸	東京歯科大学 歯学部 微生物学講座
編集委員会	大西 真	国立感染症研究所 細菌第一部
活性化推進委員会	小出 幸夫	浜松医科大学医学部 感染症学講座
学術集会委員会	五ノ井 透	千葉大学真菌医学研究センター 系統・化学分野
活性化推進委員会	関崎 勉	東京大学大学院 農学生命科学研究科
編集委員会	滝本 博明	北里大学 理学部 生体防御学講座
編集委員会(委員長)	田口 晴彦	杏林大学 保健学部 免疫学研究室
編集委員会	丹生 茂	帝京大学 医学部 微生物学講座
編集委員会	馬場 理	順天堂大学 医学部 細菌学教室
学術集会委員会	平澤 正知	日本大学 松戸歯学部 感染・免疫学講座
活性化推進委員会	松下 秀	東京都健康安全研究センター 多摩市所
学術集会委員会(委員長)	水之江義充	東京慈恵会医科大学 細菌学講座
学術集会委員会	八木 淳二	東京女子医科大学 医学部 微生物学免疫学講座
支部長	山本 友子	千葉大学大学院薬学研究院 分子医薬科学講座

(50音順)

第92回 日本細菌学会関東支部総会〈講演抄録集〉

発行日 平成21年10月23日

発行者 第92回日本細菌学会 関東支部総会事務局
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科
岡村 登(代表)
TEL:03-5803-5368 FAX:03-5803-5375
E-mail:bact.mi@tmd.ac.jp

制 作  株式会社セカンド

〒862-0950
熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL:096-382-7793
FAX:096-386-2025